

令和元年度 大野北地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和2年1月22日(水)午後7時から午後8時30分まで
- 2 場 所 大野北公民館大会議室
- 3 市側出席者 本村市長、森副市長、藤田中央区長、
樋口環境共生部長、荻野まちづくり計画部長、大貫生涯学習部長、
鈴木中央区副区長、樋口市民局長、高梨市民局次長
- 4 出席委員等 22人
- 5 傍聴者 6人
- 6 懇談会の要旨

テ ー マ	公共施設の再整備と既存施設の老朽化対策について
概要	<p>淵野辺駅南口周辺の公共施設の再整備については、昨年3月に新たな検討組織として、「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会」が設置され、現在も検討が進められており、地域住民は進捗状況を注視している状況である。</p> <p>市民検討会のアウトプットとなる基本計画が策定されるまでには、一定の時間を要することは承知しているが、その間にも公民館、図書館、青少年学習センターなどの公共施設の老朽化がますます進行することとなり、地域住民は不便な施設の利用を強いられることになる。</p> <p>特に、公民館については、館区内人口が市内で最も多く、諸室の稼働率も最も高いにもかかわらず、快適な利用に支障をきたす諸室があることに加え、地区内に公民館が一つしかないため、地域住民の交流や生涯学習の場が明らかに不足している状態である。</p> <p>そこで、市民検討会の進捗状況を伺った上で、まちづくり会議構成団体の視点から公共施設の再整備について懇談したい。また、再整備の基本計画が示されない現状を踏まえ、既存施設の老朽化への対応策や地区内の公民館配置のあり方について懇談したい。</p>
地区の取組状況等	<p>昨年3月に設置された市民検討会には、まちづくり会議の一部の委員も構成員として参画し、検討が進められている。一方で、地域で様々な公共的な活動をしている団体等で構成しているまちづくり会議としても、公共施設の再整備については、強い関心を持っており、意見を反映していただきたいと考えている。</p> <p>次期総合計画及び都市計画マスタープランの策定に当たり、昨年度、まちづくり会議がとりまとめた「大野北地区まちづくり会議報告書」において、図書館や公民館等の公共施設を集約、複合化し、再整備することで、大野北地区から市内外へ文化を発信する交流拠点を創ることを重点分野として取り上げている。</p> <p>公民館は、駅近くの好立地にあるため、地域住民の交流や生涯学習の場として、まちづくり会議の構成団体も頻繁に利用しているが、再整備を考慮して買い控えている備品類がある。現在では、これらが必要になった場合には、自治会等に借用するなど、団体間で協力しながら活動している。</p>

市の取組
状況等

淵野辺駅南口周辺の公共施設の再整備については、「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会・有識者協議会」を昨年3月2日に立ち上げ、その中で検討を進めている。これまでに市民検討会を8回、有識者協議会を4回開催した。直近では、第9回目を1月25日(土)に開催をする予定であり、年度内に第10回目まで開催したいと考えている。

市民検討会では、市立図書館や大野北公民館、鹿沼公園など淵野辺駅南口周辺の公共施設を見学し、それぞれの魅力や課題の共有、課題解決に向けたアイデア出しを行ってきた。

市民検討会での意見やアイデアをもとに、オープンハウスやアンケートを実施した。オープンハウスとは、事業の内容等が書かれたパネルを展示し、通行人に対し市の職員等が説明をしながら見てもらい、意見などをいただく方法である。オープンハウスでは約300人、アンケートでは約800人の方々から意見をいただいた。

これらの意見も踏まえ、市民検討会では、「鹿沼公園と公共施設を生かしてまちの魅力アップ」という「目指すべきまちの方向性」を共有し、今後は、「公園と施設の機能の組合せ」、「施設の配置パターン」、「実現に向けた課題」の整理について議論を進めていく。

今後、オープンハウスやアンケートなどにより広く聴取した市民意見や有識者協議会の意見を踏まえ、本市が直面する人口減少、超高齢社会を迎えるに当たり、市民、有識者、行政の3者協働による本市の将来を見据えた検討を進めていく。

大野北まちづくり会議においては、平成20年の「大野北地域まちづくり提言書」に引き続き、昨年度にも「大野北地区まちづくり会議報告書」にて、図書館や公民館等の公共施設を集約、複合化し、再整備することで、大野北地区から市内外へ文化を発信する交流拠点を創ることを重点分野として報告いただいた。

今後本市が直面する人口減少、超高齢社会を迎えるに当たり、必要なことだと認識している。
(都市建設局)

大野北公民館や市立図書館については、今後も市民検討会の進捗状況にかかわらず、引き続き、必要な修繕等について実施をしていく。

なお、公民館の大規模な改修については、各公民館の建築年度や施設の状況、周辺施設の立地状況等を踏まえながら、現施設の改修や他施設との複合化など、各地区の状況に応じて、計画的に大規模改修等を実施している。

大野北公民館区の人口は、昨年12月時点で約63,000人程度であり、公民館区で抱えている人口としては市内で最も多い。

平成30年度の大野北公民館の利用率は、77.4%となっており、最も多く利用されている公民館である。

公民館区を分割することも考えられるが、今後の人口推計、公民館を設置する候補地の選定・確保等を考えると難しい状況である。

現在は、大野北中学校の余裕教室を1室活用し、生涯学習ルームを設置しているので、公民館と併せてご利用いただければと考えている。

今後も、市民検討会の議論の進捗状況については、大野北まちづくり会議の中で報告し、そこで頂いた意見を市民検討会に戻しながら、検討を進めていく。

市民検討会に限らず、今後も地域の皆様の声を伺いながら、事業を進めていく

	ので、引き続き、協力をお願いしたい。	(教育局)
--	--------------------	-------

懇談内容	
地区の発言	<p>長年の課題である公共施設再整備の基本計画がなかなか示されない現状に、強い危機感を持っている。まちづくり会議としては、図書館・公民館等の公共施設を集約、複合化し、再整備することで、大野北地区から市内外に文化を発信する交流拠点を創ることを重点に考えている。</p> <p>特に図書館について、他市では、従来の図書館のイメージを一新し、特色のある図書館を建設している。その図書館を子ども達から高齢者までが集い、交流できる市民の交流拠点としている例が複数ある。</p> <p>大野北地区にある図書館は「相模原市立図書館」で、相模原市を代表する図書館であると認識しているが、正直なところ、時代遅れの施設になっていると感じている。図書館・公民館等の公共施設を再整備し、大野北地区から市内外に文化を発信する交流拠点を作ることもシビックプライドであると思う。</p>
地区の発言	<p>市民検討会の委員からは、9か月間会議をしているが、実際は課題の中身にまでは入っていないと聞いており、委員の交代等もあると、話し合った内容も全て振り出しに戻ってしまうのではないかと感じている。</p> <p>現在の市立図書館は、図書を貸す・返すという機能のみで、最新の図書館と比べ、機能性に欠けると感じる。また、公民館についても全体的に老朽化を感じている。少しでも早く、整備を進めていただきたい。</p>
地区の発言	<p>市民検討会開始時の主なテーマは、「魅力のあるまちづくり」であった。先ほど市長が言われたように、出身地を聞かれた際に「相模原」と答えられるような環境づくりや、駅周辺の利便性や活気、市民が集える場所を提供するのが魅力のあるまちづくりであると思う。</p> <p>もう一つに「次世代に引継ぐ」というテーマがある。今の子ども達や若い世代に世代交代をしていく時に、現在の公共施設のまま引き継いで良いのか、疑問に感じる。具体例を挙げると、現在の公民館の暖房は、ON・OFFの操作のみで、温度調節ができない。次世代とは、20年、30年先ではなく、5年、長くて10年先として考えている。</p> <p>4月以降も検討会の継続が予定されているが、検討会としての目標や期間を決め、スピード感をもって、早急に進めていくべきと考えている。</p>
地区の発言	<p>現在の図書館等の建物は、子育て世代にとっても安心して子どもが本を読む場所ではないと常々思っている。また、災害が起きた時に甚大な被害が出る建物であって欲しくない。</p> <p>今後の本市の財政状況を考えても、公共施設等に使える経費も減少してくるのだろうと考えている。大野北地区は人口が6万人を超え、児童数も今後数年間は増加していく状況であり、余力があるうちに、この老朽化した建物を早急に再整備し、安心して皆が集える場所にして欲しい。また、温暖化対策等も踏まえた建物整備を計画してほしい。</p> <p>毎年、修繕を重ねていくと、恐らく5年後くらいで建物を建てられるくらいの経費になると思う。迅速に抜本的な対策をお願いしたい。</p>

地区の発言	<p>市内の小学生が減少している中、淵野辺小学校は350人くらいの児童が増加する見込みで、転入生も増加傾向にある中で、学校としても選んでもらえるような教育を進めていきたいと考えている。教育だけではなく、地域として選ばれるまちになっていくには、駅からの利便性や図書館や公民館等の公共施設が選ぶポイントになっていくと思う。子ども達にとって住みやすく、保護者にとっても通わせやすい環境づくりがまちの活性化にも繋がってくる。淵野辺が良いモデルとなるような環境にしてみたい。</p>
地区の発言	<p>公共施設の再整備について当初の計画では、鹿沼公園の一部に公共施設を整備すると示され、公園利用者等から景観が変わると反対された経過があるが、公園自体の環境を再編成しないと、この問題は解決ができないと思う。野球場の整備については、公園内に野球場が本当に必要なのか疑問である。</p> <p>今回公共施設を鹿沼公園の中に整備するというのは、都市公園法が改正されて公園の中に公共施設を整備できるということから始まったと思うが、この経緯を市民が理解できるよう整理してほしい。</p> <p>公園の中に公共施設を整備することを実現させるには、公園内の再編成をしていただかないと、話が進んでいかないのではないかと思う。他市にないような施設を整備してもらいたい。</p>
地区の発言	<p>大野北高齢者支援センターは圏域が大きく、高齢者も多いという理由から、平成27年度に2つに分割されている。その前年度に大野中地区と大野南地区も同様の理由で分割されているが、その2地区は、分割の単位で公民館を保有していたために大きな混乱もなく、まちづくりも進めやすかったと聞いている。しかし、大野北地区は6万人の圏域に対して公民館が一箇所しかなく、大野中地区、大野南地区に比べ、不平等に見える状態である。</p> <p>まちづくりのテーマを一つにしていく中で、まちづくり会議としては、再整備をとにかく早く進めたいという考えのもと、検討を進めている。しかし、高齢者支援センターの視点から言えば、6万人の圏域で中心に一箇所、公共施設ができたところで、体力が低下してくる高齢者等にとって使いやすいものなのか疑問に感じる。</p> <p>公民館の再整備は非常に重要であるが、大きな圏域に一つしか集いの場がないという不平等に感じられる状態を、改善できる手立てがないのか、この点についても検討いただきたい。</p>
地区の発言	<p>再整備については、未だに構想を練っている段階であり、実現性は低いと感じている。構想ではなく、いつ実現させるのか、具体的な計画を示してほしい。</p>
地区の発言	<p>災害が起きた時に一番に避難場所になるのは公民館であると思うが、現在の公民館では避難できる施設なのか疑問である。災害が起きた時に備えて、市民の安全を守れる施設を整備してもらいたい。</p> <p>検討会の中では、全員が公共施設の複合化を望んでいる訳ではなく、景観を守りたい、淵野辺駅北口はどうするのか等、様々な意見が出ている。ある程度、市から方向性を示してもらい、内容を絞って検討できるようにしてもらいたい。</p>
地区の発言	<p>日本の人口は、約100年後には5千万人をきるといわれており、本市でも同様に減少していく見込みである。このような中で、今から人口減少に対応するまちづくりを進めていくべきであり、今回の公共施設の再整備に関しても、総合的な</p>

	<p>視点から考えていく必要があると考えている。</p> <p>今後30年以内に首都直下型地震が80%以上の確率で起こると言われているが、災害時に備え、一番の避難場所となる公民館を早急に建て替える必要を感じる。様々な問題があり、舵取りが非常に難しいと思うが、優先順位をしっかりと見極め、進めていただきたい。</p>
地区の発言	<p>まちづくりをしていく上では、もちろん建物も必要であるが、人が一番大切ではないかと考えている。今の子ども達に、相模原で育っていきたい、相模原に帰ってきたいと思われるようなまちづくりを進めていくことが、シビックプライドに繋がるのではないかと。</p> <p>公共施設の複合化があげられているが、一箇所に集約せず、それぞれの場所に人が集まる施設を置いておくことで、例えば子ども達の学習場所の選択肢が増えたりとメリットもあるのではないかと。</p>
地区の発言	<p>公民館の備品についても老朽化し、机等が不足している状態である。施設整備の前に、備品の補充等もお願いしたい。</p>

市長の感想等	<p>以前提示した案に対するパブリックコメントも地域の声として受け止めた中で、現在の検討会を進めている状況である。</p> <p>鹿沼公園内にある児童交通公園は、横浜線沿線に住む子育て世代の方々から多く利用されており、駅の近くにこのような規模の大きな公園があるというのは、大きな資産である。また、鹿沼公園は災害時の一時避難場所にもなっている。</p> <p>老朽化した施設の再整備については今後進めていかなければならない課題として、いただいた意見を参考にし、地域の皆様の合意のもと、取組を考えてまいります。 (副市長)</p> <p>昨年、(仮称)行財政構造改革プランを策定する方針を出さざるを得なかったのは、外から見ていた相模原市と中に入って見た相模原市では、財政状況が違い、非常に厳しい状況であったからである。令和2年から令和9年までに8年間で1400近い公共施設の改修や耐震化をし、現在の行政サービスを続けていった場合に、768億円のマイナスが出るということが判明した。これまで、本市の財政状況は良いイメージを持たれていたかもしれないが、政令指定都市の中でも税収は下位から数えて3、4番目であり、今後、数年間は財政の立て直しを図っていかねばならない。</p> <p>しかし、財政が厳しいからやらないということではなく、予算がなくても、PFI等の民間活力を活用することもできる。これらも踏まえ、果敢にチャレンジしていきたいと考えている。</p> <p>大野北地区には、駅の近くに市内外からも人が多く集まる鹿沼公園もあるが、多くの公共施設が各所に分散され、老朽化してきていることは重々承知している。本日様々な意見をいただき、中には具体的な目標期間等を示してもらいたい等の声もあったことから、スピード感をもって取り組まなければならないと思っている。</p> <p>今後、市民検討会、有識者会議等と連携を図り、地域の皆様と対話しながらより良い方向性を決めていきたいと考えている。地域の皆様の希望を叶えられるようなまちづくりに近づけていきたい。 (市長)</p>
--------	---